

本市のデータ



(1)面積 99.96km²

(2)人口 (人)

平成16年	平成21年	平成26年	平成31年4月末現在
155,184	156,258	156,480	155,142
65歳以上人口比率			25.7%

(3)世帯数

平成16年	平成21年	平成26年	平成31年4月末現在
58,420	60,063	62,198	64,085

(4)産業構造

区分	就業人口 平成17年	就業人口 平成22年	就業人口 平成27年
1次	2,419人 3.3%	1,838人 2.5%	1,858人 2.5%
2次	23,505人 32.2%	21,934人 30.0%	22,955人 30.7%
3次	46,471人 63.6%	46,665人 63.9%	47,744人 63.8%
計	73,067人	73,089人	74,838人

本市の概要

ひたちなか市は、東京から約110キロメートルの距離にあり、中心は東経140度32分、北緯36度24分で茨城県の中央部からやや北東に位置し、東西約13キロメートル、南北約11キロメートルで99.07平方キロメートルの面積を有している。

西は常磐自動車道の通る那珂市に、北は東海村に、南は那須岳を源流とする那珂川を挟んで県都水戸市と大洗町に接し、東は美しい碧の海の広がる太平洋に面して約13キロメートルの海岸線が続いている。

市域は、太平洋と那珂川下流域に位置する海拔7メートル前後の低地地区と阿武隈山系から南東に緩やかに傾斜している那珂台地と呼ばれる海拔約30メートル前後の起伏の少ない平坦な台地地区とに分けられる。低地地区は、漁港を中心に市街地が形成され、那珂川流域は水田地帯となっている。一方、台地地区は、駅を中心に市街地が形成され都市化が進行しているが、周辺は畑地も多く、また、中小河川が市街地にくさび状に入り込み、台地縁辺部は豊かな緑が帯状に連なっている。

気候は、典型的な東日本の太平洋型の気候で、台風などによる自然災害も少ない。年間平均気温は14度、最高気温は36度前後、最低気温はマイナス10度を下回ることはない。降水量は月平均で100ミリメートルを超え、降雪は数えるほどである。

地域は水産加工業を主体とした食品製造関係水産業を基幹として発達してきた。これら既存の産業に加え、ひたちなか地区において常陸那珂工業団地が、また、その隣接地区では第2期山崎工業団地が整備され、企業の立地が進んでおり、今後とも県内有数の先進工業都市として躍進していくことが期待されている。

また、市内に二つの漁港があり、近海沿岸漁業の基地となっている。農業では、干しいもが特産品となっており、日本一の生産量を誇っている。

商業面では、大規模小売店舗の充実などで商圈の地元吸収力が増大している。今後は阿字ヶ浦海水浴場や魚量販店などの資源を存分に活かした観光・レクリエーションの振興を図ることにより、商業を活性化していくことが期待される。

この他、ひたちなか地区では、国営ひたち海浜公園や自動車安全運転センター、テクノセンタービル、大規模商業施設などがオープンしている。

このような拠点開発により、国内外から多くの人、物、情報が交流する国際港湾公園都市を目指している。

支援に向けての取り組み状況

<対策の方針・目標>

市民一人ひとりが、自殺を身近な問題として捉え、ゲートキーパーとして家族や周囲の人を見守れるような意識を持つために、自殺予防についての知識の普及啓発を図る。また、民生委員や市職員の市民対応強化や関係機関との連携を図り、自殺予防に努める。

<具体的な取組み>

1. 相談事業

心の健康相談

気分が落ち込む、眠れないなど、心の悩みを抱えている方や家族の方を対象に、精神保健福祉士による面接相談を月1回実施。

2. 心の健康づくり講演会

平成15年度～毎年開催

平成27年度 演題「大切なことと命を支え合うために」

講師 筑波大学医学医療系臨床医学域精神医学 准教授 太刀川 弘和 先生

平成28年度 演題「気づきと絆でいのちを守る：自殺予防の基礎知識」

講師 筑波大学 高橋 祥友 教授

平成29年度 演題「心を元気にする講座～心のリフレッシュ術教えます～」

講師 臨床人間学研究会附属 あさか台相談室 理事長 藤本 裕明 先生

平成30年度 演題「心が追いつめられた人への対応～「いのちの電話」運動に学ぶ～」

講師 公益財団法人 茨城カウンセリングセンター 副理事長 永原 伸彦 先生

3. 啓発活動

平成22年度 自殺予防パンフレット「守ろう！大切ないのち」(全戸配布)

平成23年度 自殺予防相談窓口カード入りティッシュ配布

自殺予防街頭啓発(平成22年度から)

JR勝田駅前、保健所職員と共に相談窓口チラシとポケットティッシュを配布し自殺予防、相談窓口のPR。

平成24年度 ①9月の自殺予防週間にコミュニティセンター、市役所、支所、保健センターに自殺予防を呼びかけるのぼり旗を設置。

～

現在

②3月の自殺予防強化月間に、公民館、市役所、保健センターに自殺予防を呼びかけるのぼり旗を設置。また、市内3ヶ所の図書館には、のぼり旗の他にメンタルヘルス関連図書やパンフレット・ポケットティッシュ等を置いた特設コーナーを作り、PRを行った。

4. ゲートキーパー研修

民生委員及び市職員を対象に研修会を実施

平成23年度～毎年開催

平成28年度 1日目 演題 「自分を人生最強のパートナーにしよう

～自分も大切な人もココロが楽になる方法～」

講師 日本セルフパートナーズ協会代表 カウンセラー 澤登 和夫 先生

2日目 演題 「自殺の現状・ゲートキーパーの役割について

あなたがゲートキーパーになるとき」

講師 健康推進課職員

平成29年度 1日目 演題 「相手の心が楽になるための気づくポイント」

2日目 演題 「相談にのろう、聴き方・話し方」

講師 株式会社越谷心理支援センター 代表 石渡 淳嗣 先生

平成30年度 1日目 演題 「ゲートキーパーの役割、代表的な精神疾患の病態」

講師 精神保健福祉センター長 遠藤 憲一 先生

2日目 演題 「相手に寄り添った声のかけ方聞き方(体験型)」

講師 ユタリラ相談室 窪 暁子 先生